

日本結核病学会北陸支部学会

—— 第73回総会演説抄録 ——

平成20年10月25・26日 於 福井商工会議所（福井市）

（第62回日本呼吸器学会
第47回日本呼吸器内視鏡学会 と合同開催
第32回日本サルコイドーシス学会）

集会長 平井 隆（福井赤十字病院呼吸器外科）

—— 一般演題 ——

1. 非結核性抗酸菌症の経過中に発症した SIADH の 1 例 °朝日向良朗・北 俊之・曾根 崇・廣瀬達城（NHO 金沢医療センター呼吸器）藤村政樹（金沢大院細胞移植学呼吸器内）

症例は74歳女性。主訴は食欲低下。胸部 X線写真にて右上中肺野に浸潤影を認めた。喀痰ならびに気管支肺胞洗浄液（右 B²）の抗酸菌塗抹陰性、培養陽性、PCR法で *Mycobacterium avium* 陽性であった。非結核性抗酸菌症（*M. avium*）と診断しクラリスロマイシン、リファンピシン、エタンブトール、カナマイシンを投与した。治療開始3週後に、血清 Na 114 mEq/L まで低下した。諸検査の結果、SIADHと診断した。薬剤を中止し、水分制限、NaCl 補充を行い低 Na血症は改善した。

2. 腹膜炎、重症黄疸、DICを併発した肺結核の1例 °菅野貴世史・外山善朗・西岡慶善・赤井雅也・長谷光雄（福井赤十字病呼吸器）

53歳男性。主訴は腹部膨隆と倦怠感。精査の結果、肺結核に結核性腹膜炎、重症黄疸、DICを併発した稀な病

態であった。大酒家で、経済的理由もあり低栄養状態で肺結核発症し、patient delayにより重症化したと考えられた。胆道系優位の肝障害を認め、血清ビリルビン値が上昇しており、全身性結核の一病変として肝胆道系の結核性病変の存在が示唆された。難治性と考えられたが、抗結核療法が著効し改善を認めた。

3. *M. intracellulare* による胸膜炎の1例 °西岡慶善・菅野貴世史・外山善朗・赤井雅也・長谷光雄（福井赤十字病呼吸器）

症例は80歳女性。1カ月持続する咳と微熱にて近医受診し肺結核を疑われ当科紹介、胸水・喀痰でのPCR検査・抗酸菌培養、局麻下胸腔鏡での胸膜生検の結果より *M. intracellulare* による胸膜炎と診断した。胸膜炎・気胸を非結核性抗酸菌症（NTM）に合併することは稀であるが、本症例では胸膜に接する浸潤影・空洞性病変があることからNTMによる随伴性胸膜炎から胸腔内穿破をおこしたものと考えられた。